

内水浸水想定区域（想定最大規模）はどうやって決めたの？

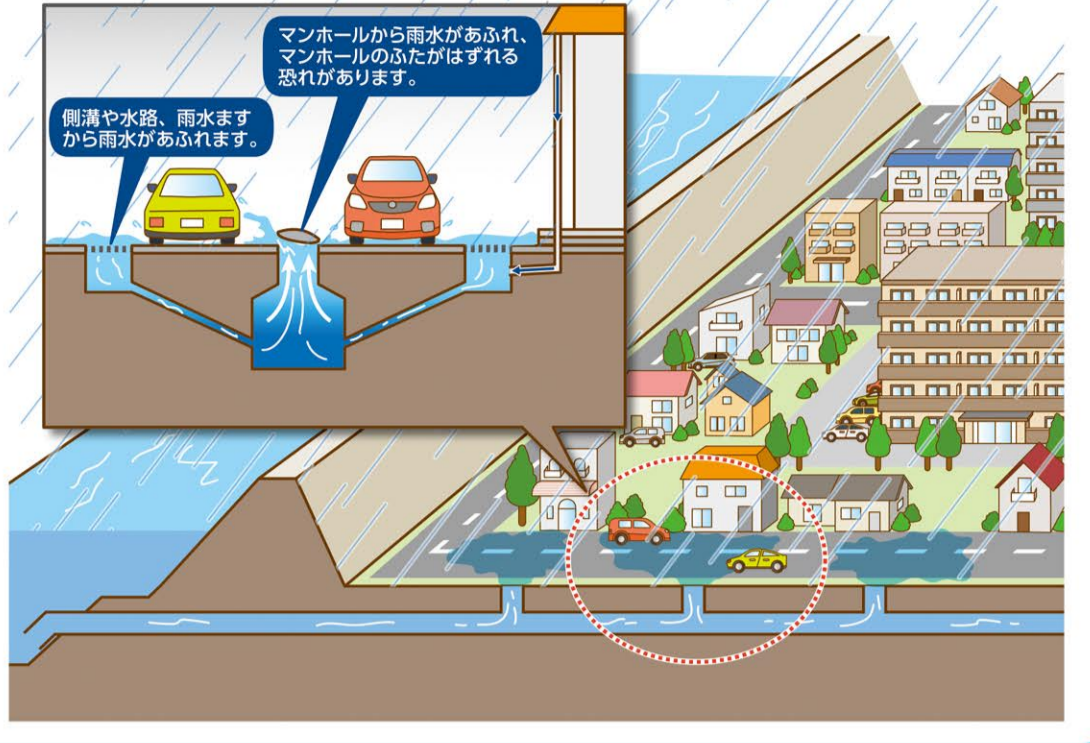
この内水浸水想定区域は、想定最大規模の降雨によって、下水道や水路、道路側溝などから水があふれる範囲や深さをシミュレーションしたものです。想定最大規模降雨とは、各地方において過去に観測された最大の降雨量を基本に設定することになっており横浜市では、1999年に関東地方で観測された時間降雨量**153mm**としています。

なお、この内水浸水想定区域図は河川の堤防を越えて水があふれることも考慮してシミュレーションしていますが、堤防の決壊は想定していません。洪水浸水想定区域と浸水深や浸水範囲が異なる場合があります。
必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

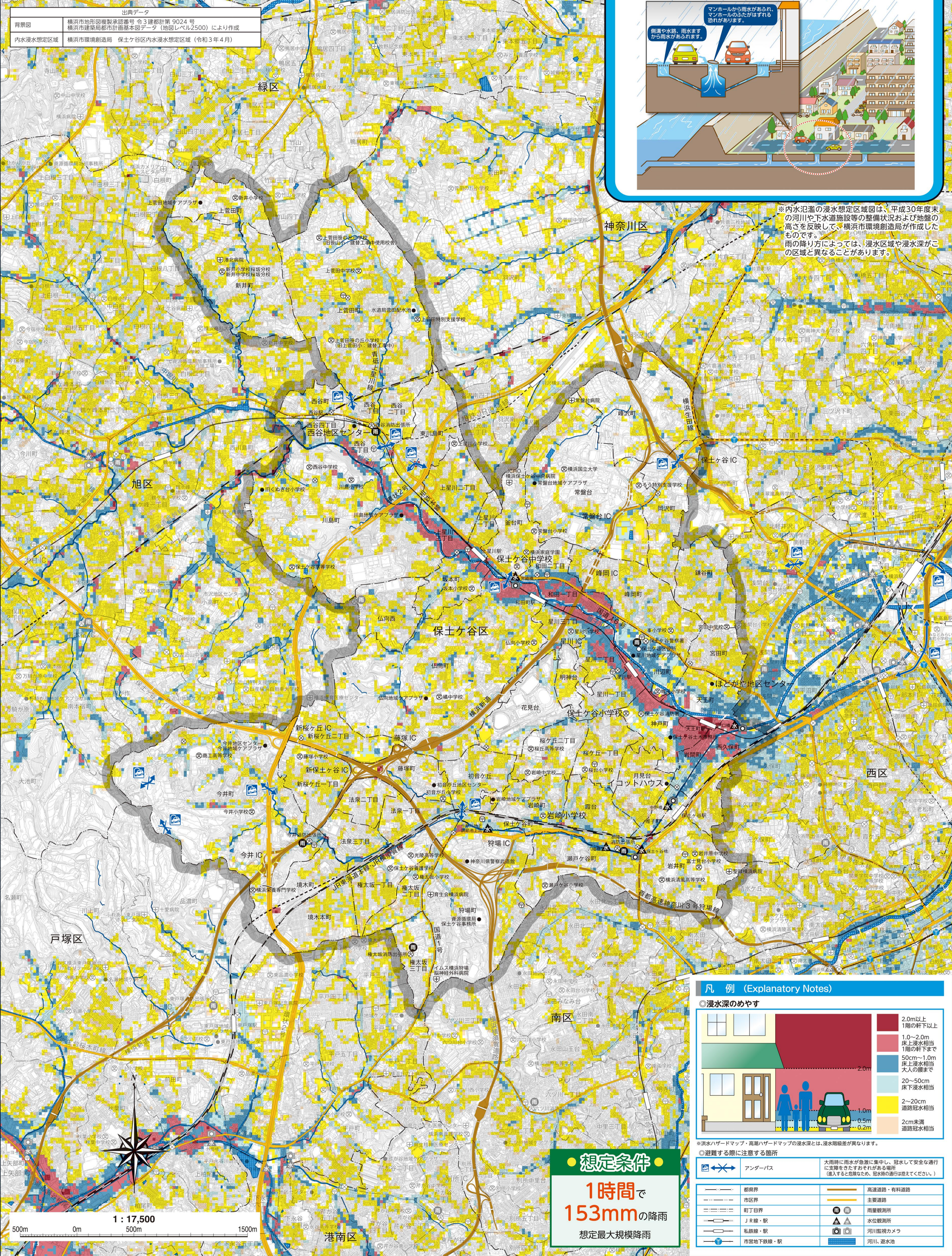
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9024号 横浜市建築局都市計画基本図データ（地図レベル2500）により作成
内水浸水想定区域	横浜市環境創造局 保土ヶ谷区内水浸水想定区域（令和3年4月）

保土ヶ谷区内水ハザードマップ 内水浸水想定区域（想定最大規模）

この内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、浸水が想定される区域の皆さんに日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。
※河川周辺の浸水想定については、必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



※内水氾濫の浸水想定区域図は、平成30年度末の河川や下水道施設等の整備状況および地盤の高さを反映して、横浜市環境創造局が作成したものです。
雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深がこの区域と異なることがあります。



凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

	2.0m以上 1階の軒下以上
	1.0～2.0m 床上浸水相当 1階の軒下まで
	50cm～1.0m 床上浸水相当 大人の腰まで
	20～50cm 床下浸水相当
	2～20cm 道路冠水相当
	2cm未満 道路冠水相当

※洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップの浸水深とは、浸水範囲が異なります。

◎避難する際に注意する箇所

	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障きたすおそれがある箇所（進入すると危険なため、冠水の通行は控えてください。）
	都県界	
	市区界	
	町丁目界	
	JR線・駅	
	私鉄線・駅	
	市営地下鉄線・駅	
	高速道路・有料道路	
	主要道路	
	雨量観測所	
	水位観測所	
	河川監視カメラ	
	河川・遊水池	

想定条件
1時間で
153mmの降雨
想定最大規模降雨

